

DV 被害者支援及びシェルター運営事業

- ① 電話相談 517 件、面接相談 181 件、同行支援 150 件実施した。内部研修を実施し支援の充実を図った。
- ② 国の寄り添いホットラインに参加。月 2 回～3 回、DV・性暴力相談を担当し、合計 434 件。
- ③ シェルターに年間 17 組、大人 18 人、子ども 9 人を保護した。本年度は委託の件数が 7 件、委託以外の保護件数が 10 件であり、利用日数の総計としては 457 日となった。シェルター開設（2004 年）以来、保護件数 314 件、大人 322 人、子ども 377 人、委託 198 件、委託外 114 件となった。
利用日数 4538 日。委託は減少しているが、17 組の利用があること、相談件数が全国で 10 万件を越している状況で、まだまだ民間シェルターの必要性はあると考えている。他府県からの利用も 3 件あった。
- ④ 県の委託である心のサポート事業として、利用者への心のケアや同行支援、保育、学習支援を実施した。
- ⑤ 神戸市の委託事業で DV 被害者支援者養成講座開催 参加者 28 人。
- ⑥ 兵庫県の委託事業として DV 被害者自立支援講座、参加 18 人、DV 被害者支援ボランティア養成講座 参加 26 人、DV 防止出前講座 参加 34 人、を開催できた。DV への理解や支援の輪が広がった。

DV・デート DV 防止教育事業

- ① デート DV 防止授業は今年度、県内の大学での授業は 12 校となった。また、高校は学校独自の実施は 7 校に留まった。ただ、神戸市、明石市、宝塚市、たつの市、西脇市、多可町では地元自治体の費用負担により 13 校で実施できた。中学校においても神戸市、明石市、宝塚市、西宮市、高砂市、三木市、加東市、西脇市、川西市の自治体で同様に 38 校で実施できた。全体では、他府県（大阪、滋賀、京都）あわせて、17,873 人に実施し、デート DV 防止授業を始めた 2007 年度から 204,000 人を超えることとなった。
- ② ドコモ神戸支店に続いて、県の委託事業で企業向け DV 防止啓発講座「DV と子どもへの影響」～対等なパートナーシップを築こう を実施した。9 月は兵庫県人権啓発企業連絡会（神戸信用金庫が幹事会社）のメンバーを対象に実施、参加者 20 名。10 月にはコープこうべの店長さんを対象に実施、14 名が参加。「DV についてよく理解することができた、他人事ではないと思った、何か支援したいと思った」等の感想を頂けた。その後、明石市内の保育所職員全体に同様の研修を実施。その後、コープこうべの女子用トイレに DV 相談カードを設置してもらえるようになった。スーパー等多くの女性が来られるところに、活動の広報ができたことは支援の輪を広げるためにも非常によかった。今後も地域に研修を広げていきたい。

DV 被害者生活再建事業

1、WACCA の運営—女性やシングルマザーと子どもたちの居場所運営事業

- ① 女性やシングルマザーと子どもたちの居場所として、立ち上げた WACCA は 5 年目を迎え、開設当初より、参加者も多くなり事業の数も増加した。その結果のべ 4000 人を超える方たちが WACCA に来られた。
- ② 新聞などマスコミに取り上げられる機会も増えた。（神戸、毎日新聞など）
- ③ アイロンがけなどの就労準備支援は、少人数ながら週 3 回午前中実施した。フリーヘルプとの協働事業では

WACCA の利用者の中から就労希望者に向けて採用の道へ進めるようにしている。

- ④ 子どもたちの学習支援は、WACCA 塾として、小学 1 年生から中学 3 年生まで毎週火水金の 5 時から 8 時半まで実施した。3 月の受験時には 4 名の受験生が高校受験に挑み、全員が合格し高校への入学を果たした。これらは「神戸市子どもの居場所づくり事業」として開催した。参加人数は、小学生 895 名 中学生 1019 名 ボランティア 905 名にのぼる。
- ⑤ 女性の学習支援の場「WACCA スクール」は継続して実施した。高卒認定を取るための学習や、定時制高校に通う女性の学習支援、資格を取るための学習相談の場として週 1 回水曜日に実施した。1 名が定時制高校に合格。結果だけではなく、WACCA スクールはそこに集う女性たちが、お互いに励まし合ったり、情報交換ができる場にもなり、次のステップを考えチャレンジする人もいた。いずれの事業にも、ボランティアの力は欠かすことのできない大きな力となっている。学生さんは、就職や進学で、次の一步を踏み出すことになったが、WACCA での体験が自信やエンパワメントにつながったと話していた。

参加女性延べ 169 人、ボランティア 89 人

- ⑥ シングルマザーカフェは月 1 回第 4 日曜日に実施した。この会を通して女性たちが孤立感を解消し、信頼できる仲間を得ることは、生活再建に向けて非常に効果的である。特別なイベントとして、10 月には地元の商店街の協力も得て英語でハロウィン、12 月はクリスマス会、3 月にはシングルマザーフェスタを開催。シングルマザーフェスタは初めての企画で、10 月に予定していたが台風のため急きょ中止。翌年 3 月に実施した。大人 102 名 子ども 88 名 ボランティア 44 名が参加し、母子ともにたくさんの笑顔が見られた。
- ⑦ 女性のための相談事業として、毎月 2 回女性相談、毎月 1 回キャリア相談、随時、生活相談や子育て相談を実施。電話相談、面接相談の合計は 139 件。
- ⑦ DV 被害者の自助グループとして、月 1 回、コスモスの会を開催。同じ経験した仲間と悲しみや怒りを共有できることが、参加者の孤立感を解消し、エンパワメント効果は非常に高い。参加者 75 人

2、家庭訪問事業（DV 被害女性自立支援活動委託事業）

神戸市の委託で、DV 被害者自立支援事業として、10 月～3 月で DV 離脱後の 5 世帯を月 2 回ずつ家庭訪問した。新たな地域で孤立しがちな単身女性や母子から、悩みを話せる人がいてとても心強いと言われた。精神的、経済的な問題について、必要があれば行政の担当者に繋ぐようにした。兵庫県も委託事業として、県内の 5 世帯の家庭訪問を月 2 回ずつ実施した。

3、「子ども元気ネットワーク関西」

認定 NPO 法人フードバンク関西、NPO 法人フリーヘルプと協働で事業をたちあげ、支援を必要とする母子家庭に毎月 1 回食糧支援、3 か月に 1 回衣類の支援を行なっている。当団体のこれまでの活動を通して、繋がりのある母子家庭を対象としている。26 世帯に実施した。

2017年度 活動計算書(報告書)

2017年04月01日～2018年03月31日(決算)
NPO 法人女性と子ども支援センターウィムズネット・こうべ

(円)

科目		金額	
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
	正会員受取会費	230,000	
	賛助会員受取会費	636,000	
	受取会費計		866,000
受取寄付金			
	受取寄付金	10,007,748	
	受取寄付金計		10,007,748
受取助成金等			
	受取地方公共団体補助金	2,553,290	
	受取地方公共団体助成金	47,261	
	受取民間助成金	11,397,301	
	受取助成金等計		13,997,852
事業収益			
	相談事業収益	37,000	
	付添い支援事業収益	4,000	
	女性の自助グループ開催支援事業収益	4,500	
	緊急避難施設運営事業収益	5,457,992	
	生活再建支援事業収益(WACCA)	27,750	
	シングルマザー支援&仲間づくり講座事業収益	65,000	
	デートDV防止出前事業収益	280,000	
	デートDV防止啓発授業実施事業収益	2,773,652	
	支援者養成講座開催事業収益	52,000	
	WACCA塾事業収入	34,000	
	情報提供事業収益	349,582	
	事業収益計		9,085,476
その他収益			
	受取利息	185	
	雑収益	90,830	
	その他収益計		91,015
	経常収益合計		34,048,091
(2)経常費用			
事業費			
【人件費】			
	役員報酬	1,200,000	
	給料手当	6,032,395	
	雑給	42,600	
	福利厚生費	2,808	
	【人件費計】		7,277,803
【その他費用】			
	ボランティア謝金	30,000	
	諸謝金	5,381,476	
	旅費交通費	5,005,685	
	会議費	41,967	
	通信運搬費	344,095	
	食材費	186,000	

	消耗備品費	19,027		
	消耗品費	417,734		
	事務用品費	12,190		
	新聞図書費	492,680		
	印刷製本費	1,122,040		
	賃借料	282,348		
	会場費	56,310		
	保険料	18,500		
	水道光熱費	410,303		
	支払地代家賃	3,499,044		
	諸会費	10,000		
	支払手数料	41,945		
	租税公課	450		
	雑費	40,214		
	減価償却費	168,445		
	【その他費用計】		17,580,453	
	事業費計		24,858,256	
管理費				
【人件費】				
	役員報酬	1,200,000		
	給料手当	753,650		
	法定福利費	590,820		
	福利厚生費	100,110		
	【人件費計】		2,644,580	
【その他費用】				
	旅費交通費	190,090		
	会議費	20,120		
	交際費	45,720		
	通信運搬費	327,070		
	消耗備品費	22,016		
	消耗品費	173,449		
	事務用品費	138,003		
	新聞図書費	16,334		
	印刷製本費	697,226		
	保険料	32,000		
	水道光熱費	118,134		
	諸会費	74,040		
	支払手数料	194,511		
	租税公課	360,250		
	支援費	1,992,000		
	減価償却費	56,700		
	【その他費用計】		4,457,663	
	管理費計		7,102,243	
	経常費用合計			31,960,499
	当期経常増減額			2,087,592
2.経常外増減の部				
(1)経常外収益				
	過年度損益修正益	48,670		
	経常外収益合計			48,670
(2)経常外費用				
	経常外費用合計			0
	当期経常外増減額			48,670

税引前当期正味財産増減額			2,136,262
法人税、住民税及び事業税	122,028		
当期正味財産増減額			2,014,234
前期繰越正味財産額			13,351,798
次期繰越正味財産額			15,366,032